

12月19日

## 在シドニー総領事交流録 第 10 回

### 西シドニー開発

11 月 24 日、私は、都市再生機構（UR）とブラッドフィールド開発公社（BDA）が主催し、当館も後援した、「西シドニー開発」に関する日本企業向け説明会に参加しました。

「西シドニー開発」は、現在 530 万人が住んでいる大シドニー圏（Greater Sydney）が、2056 年には人口が 800 万人に増加する見込みであることを踏まえ、人口増と経済・構造の変化に適応するために生まれた「シドニー3 大都市圏構想」の一つの柱です。この 3 大都市圏構想は「西部パークランドシティー」、「中央リバーシティー」及び「東部ハーバーシティー」の 3 つから成り、必要な経済・社会インフラの投資とイノベーションを先行して推進していくというものです。

この新たな起動力と言えるのが、西シドニー国際空港とブラッドフィールドを中核とする開発です。そのために、2018 年 3 月に連邦政府・ニューサウスウェールズ（NSW）州政府と関係 8 地方自治体が西シドニー都市協定（Western Sydney City Deal）に署名しました。今回の説明会は、ブラッドフィールドシティで先端製造業促進施設（Advanced Manufacturing Readiness Facility（AMRF））が本年 3 月開所したことに加え、西シドニー国際空港の開港がいよいよ来年に迫ってきたことから、開催されたものです。多業種に亘る約 70 社、100 名を超える参加があり、日本企業の高い関心が窺えました。

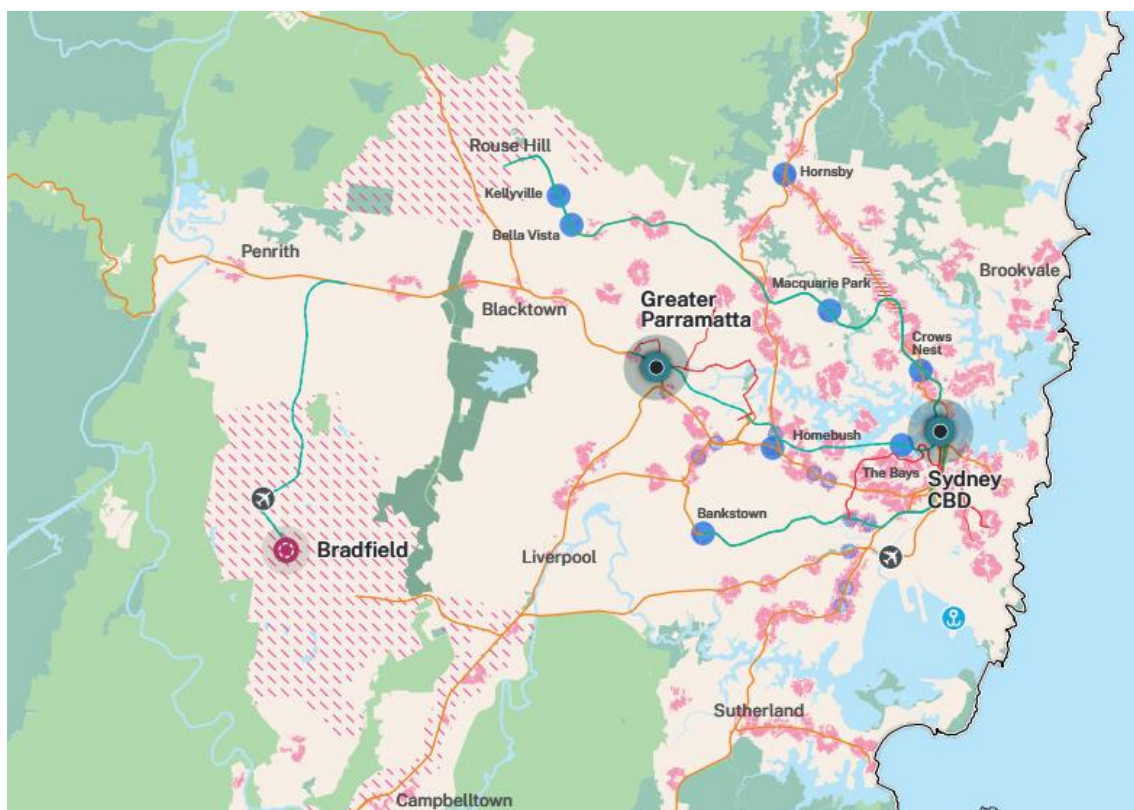


先端製造業促進施設（Advanced Manufacturing Readiness Facility（AMRF））



11月24日のAMRFでの説明会

ここでシドニー中心部から見た位置関係を大まかに説明しますと、シドニー中心部からブラッドフィールドは車で約50分、西シドニー国際空港へは約60分、そして同空港はブラッドフィールドから車で10分余りのところにあります(いずれも渋滞がない場合)。中心部から同空港に車で30分ほど向かうと、高層ビルが増えつつあるパラマタ市を通過します。パラマタ市ではまた、オペラハウスに続くNSW州のモニュメントとなるべく、日本人の楠寛子氏と仏人のニコラ・モロー氏が営む「モロークスノキ建築設計」が設計を担うパワーハウス・ミュージアムの建設が、来年の完工を目指し、進んでいるなど、大シドニー圏が西に向かって発展しつつあることを肌で実感することができます。更にその西に行ったところに広がる空港に近接した約11万ヘクタールの地域がエアトロポリスと呼ばれ、この中核となる114ヘクタールの地域がブラッドフィールドと呼ばれる地域です。



シドニー、パラマタ、ブラッドフィールドの3地域を中心とした都市開発  
(NSW 州政府発表「シドニー計画」草案より)

州政府は、このブラッドフィールドから産業・雇用・居住の基盤整備を始めるべく、ブラッドフィールド開発公社(Bradfield Development Authority(BDA))を立ち上げ、10億豪ドルを投じ、2万人以上の雇用と1万戸の新築住宅の創出を目指しています。このブラッドフィールド地域は、ここ数年で切り開かれた広大な土地で、そこに立つ真新しい建物がAMRFです。AMRFのコンセプトは、パラマタ周辺にある製造業の中小企業が先端製造品を開発する際に支援するというもので、具体的には、設置されている最先端工作機械を、そうした高価な機械を購入できない中小企業が使用できるように提供することで、試作品製造の支援をすることに重点が置かれているとのことです。その隣では、来年から半導体パッケージの産業育成支援を目的とした第二AMRFの建設も始まるとのことです。また、近々、第一区画の開発パートナー企業が発表されるとのことで、AMRFの近くに西シドニー空港とも接続するメトロの駅の工事も進んでいます。





AMRF と建設中のメトロ駅の周辺の写真(ブラッドフィールド開発公社(BDA)プレゼン資料より)

今回の説明会では、チャンシヴォンNSW州産業・貿易大臣が冒頭挨拶をされ、西シドニー空港の開港により、西シドニーが世界のサプライチェーンの中心地として発展し、経済活動の中心がシフトする契機となるとした上で、日本は最も信頼のおけるビジネスパートナーであり、長年にわたり価値を共有してきており、西シドニー開発への投資に向けた熱い期待を述べられました。



チャンシヴォン大臣



ウエスタコット BDA 議長



モリソン BDA・CEO

それに続く、ウエスタコットBDA議長(西シドニー大学学長)の説明では、ブラッドフィールド開発は、連邦政府の諸施策(National Reconstruction Fund、Future Made in Australia、AUKUS Pillar 2 等)とも連携し、今後、半導体パッケージング、航空産業、宇宙防衛、モジュール住宅等の産業育成を図り、西シドニーの経済活性化に加え、豪州経済の課題である産業の多様化達成を目指すとした上で、来年の西シドニー空港の開港を梃子に周辺のインフラも整備され、世界に開かれたサプライチェーンが構築され、新規ビジネスや雇用の創出が期待できるとともに、西シドニーの住宅開発も加速し、約 10 万戸の新規住宅開発が見込まれるとのことでした。その上で、NSW州は工学専攻の学生数が他州と比較しても多く、西シドニー大学は豪州連邦科学産業研究機構(CISRO)と協力して研究開発部門の強化も進めることができるとのことでした。



AMRF 内の先端製造設備の見学会の様様

また、モリソンBDA・CEOからは、BDAの使命は、100 年ぶりに誕生する新都市の開発、投資誘致、産業育成の 3 点であるとした上で、エアロトロポリスは 280 億豪ドルの政府インフラ投資で整備され、200 億豪ドルの民間投資が計画されている、ブラッドフィールドでの民間開発の第一号である民間事業者向けの第一区画の開発パートナー企業がまもなく発表される、AMRF第一ビルは最先端の製造設備を設置、第二ビルには半導体パッケージング用の高性能クリーンルームを設置するとの説明がありました。



私からは、西シドニー開発は、日本が高度成長期に成田空港を建設し、筑波研究学園都市を開発した経験を想起させる、筑波は数年かけて研究機関を誘致し、万博を開催して国内外で知名度を上げ、民間投資を呼び込み、今日では研究機関やハイテク製造業の拠点となり、住宅、商業施設も整備された、こうした経験に詳しい UR から多くの示唆を得られると思う旨を申し上げました。

この説明会の後、参加企業の方々と西シドニー空港の真新しいターミナル・ビルを視察し、24 時間眠ることのない大シドニー圏の新たな玄関口の来年 10 月の開始予定(貨物便は来年 7 月開始予定)に向けて、空港スタッフの方々の熱い思いが伝わる、力強い説明も伺うことができました。



西シドニー空港玄関口での参加者集合写真

この一日の説明会及び視察を経て、100 年振りの新都市を開発し、その都市を西シドニー空港経由でグローバルに繋げて行くという大規模プロジェクトには、人口減に直面している日本では期待できないダイナミックさを感じました。新たな大規模プロジェクトということで、詳細を詰めながら進めていかなければいけない部分もあると感じましたが、日本と NSW 州、延いては豪州全体との経済関係を一層深化・拡大させるポテンシャルがあることは間違いなく、当館としても、今回の説明会を共催した UR シドニー事務所とともに、関心のある日本企業の参画に向け、できる限りの支援を行って参りたいと思います。